

2023年12月3日 No.3696

先週の講壇から

「働かない蟻もいる」

箴言 第6章6節～8節

聖句「怠け者よ、蟻のところに行って見よ。その道を見て、知恵を得よ。」(6:6)

1. 《イソップ話》 イソップ寓話に「アリとキリギリス」というお話があります。コツコツと働いている蟻たちを尻目に、ヴァイオリンを弾いて遊んでいたキリギリスは、厳しい冬を乗り越えられないのです。ところが、岩波文庫版を読むと「蟻と甲虫」となっていて、大雨（気候変動）で牛糞を流されてしまったフンコロガシが蟻に助けを乞う話でした。世の中、何があるか分からないから、将来のことを考えて備えをして置きましょう、という教訓でした。
2. 《べてるの家》 いずれにせよ、蟻が働き者であるという前提は変わりません。しかし近年の研究で、蟻の群れの中には一定数、働かない蟻が存在することが判明したのです。しかも、よく働く蟻だけを抽出しても、その中に働かない蟻が発生するし、残された働かない蟻の中からも働く蟻が出て来たのです。中学校の生徒を対象にした実験でも、やる気のある生徒ばかり集めても、自由研究発表は上手く行かず、却って、やる気なしグループの生徒が良い発表をしたそうです。精神障碍体験者が共同生活をする「浦河べてるの家」は、昆布の出汁パック製造などで年商1億円を上げていますが、働く人たちに混じって、散歩する人、寝ている人、唄を歌っている人がいます。色んな人がいるから、気持ちよく働けるのです。
3. 《一緒に越冬》 ミヒヤエル・エンデの『モモ』という児童文学があります。疲れた人、悲しみを抱えた人、辛く苦しい人が、モモという女の子に話を聴いて貰います。モモは小さい女の子ですから、何の手助けもして上げられません。でも、話を聞いて貰った人は、彼女と一緒にいてくれるだけで元気になるのです。「箴言」とは「針のような言葉」という意味です。昔は竹の針を使っていたのです。全ての蟻が働き者であるという前提は、生物学的には否定されますが、私たちも「その道を見て、知恵を得る」必要があります。働かない蟻や働けない蟻がいても、それで却って、皆が気持ちよく働いている。首領も司令官も、ボスも上司もいなくても、群れ全体が「夏の間にはパンを備え、刈り入れ時に食糧を集め」ている。働かない蟻も働けない蟻も、皆で一緒に冬籠りをするのです。

朝日研一朗牧師